

はじめに

川崎市環境総合研究所は、調査・研究機能の高度化を図るため、公害研究所、公害監視センター、環境技術情報センターの3機関を統合・再編し、2013年に羽田空港の多摩川対岸にある川崎市臨海部「キングスカイフロント」のエリア内に開設されました。地域の環境行政を科学的側面から支える機関として、環境課題に関する調査・分析や、大学・企業等との共同研究に取り組むと共に、環境教育・学習、環境分野における海外都市の連携事業を実施しています。

公害監視センターが完成した1972年当時は、本市の大気環境、水環境の悪化は深刻な状態にありましたが、市民、企業、行政の取り組みにより大きく改善されてきました。2017年度の測定結果では、大気中の二酸化窒素や微小粒子状物質(PM_{2.5})、河川の生物化学的酸素要求量(BOD)をはじめ、大気・水質の多くの項目で環境基準が達成されています。研究所を訪れた途上国方々から、臨海部の工場や多摩川など市内での視察や体験を通して、本市の環境について「きれいだ」「見習いたい」といった感想を頂くことが少なくありません。

しかし、地球温暖化や、途上国の経済発展に伴う深刻な環境悪化、大気・海洋の越境汚染など、環境課題に向けた取り組みは、国際的にもますます重要となってきました。一方、本市においても、光化学オキシダント(O_x)や海域の化学的酸素要求量(COD)など環境基準が未達成の項目もあり、地域環境のいっそうの改善に向けて、引き続き取り組みを進めていく必要があります。わたしたちを取り巻く環境をより良いものにしていくために、世界においても、地域においても、多様なセクターがそれぞれの課題に向けて取り組むと共に、連携を広げていくことが求められています。

「川崎市環境総合研究所年報第6号」では、川崎市における化学物質の環境リスク評価、バイオアッセイの取組などの調査・研究についての報告や、国際貢献事業、産学公民連携共同研究や環境学習など、2017年度の研究所の活動をまとめています。

当研究所は、地域環境についての常時監視や継続的調査を実施すると共に、国立環境研究所や大学・企業等との共同研究をはじめ、学校や市民の皆様との環境学習、国際貢献事業まで広く連携を推進しています。今後も、環境課題への取り組みについて、皆さまとのネットワークを広げていきたいと思っています。

本年報に記載しております調査・研究報告や事業内容について、より詳しく知りたいといったことや、ご意見などございましたら、研究所までお知らせください。また、日ごろの活動について、ツイートしております。セミナーやイベントのお知らせ、多摩川の生き物紹介などもあります。こちらも、ぜひご覧ください。

2018年12月

川崎市環境総合研究所

所長 川村 真一